

リレー随筆

素晴らしい東北の世界

今村総合病院 研修医 | 大藪 明典

こんにちは。今月のリレー随筆を担当させていただきます、今村総合病院研修医1年目の大藪明典と申します。同院研修医同期の小坂先生からバトンをいただきました。お話をいただいたときは二つ返事で了承してしまいましたが、6000字以内でなんでも自由に書いて良いというのはなかなか難しく、何を書くかについてもかなり迷いました。浪人～学生時代のあれこれについて書くか、愛してやまない今村総合病院の研修医同期達について書くか、はたまた楽しい（？）研修生活について書くかとも思いましたが、今回はあえて私の趣味である旅行の中でも特に印象に残っている東北旅行について書かせていただきたいと思います。鹿児島に住んでいると東北地方にはなかなか馴染みがないのではないかでしょうか。北国に旅行に行こうと北海道に行くことはあっても、東北はスルーされがちです。かくいう私も旅行に行く前は全く未知の世界でした。ただ、行ってみるとご飯も美味しい温泉もいいところが多いとても素晴らしい場所でした。拙い文章で大変恐縮ですが、この場を借りて東北の魅力を少しでもお伝えできればと思います。

初めての東北 青森 ～林檎とランプと温泉と私～

12月の冬真っ盛り、私が東北で初めて降り立った地は青森でした。「青森といえば林檎、それ以外はよくわからない…」という方はぼく以外にもいると思います。それくらい鹿児島の人間には馴染みがなく、林檎のイメージが強い。そもそも人はどれくらい住んでいるのか？5階建以上のビル

はあるのか？とも思っていました。しかし降り立ってみると、かなりの都会で5階どころか高層といえるビルもいくつもありました。この時点でぼくの青森のイメージは覆りました。



想像していた青森市



実際の青森市

青森はやはりなんと言っても林檎が美味しい。りんごジュースやシードル（林檎から作るワイン）をたらふくいただきましたが、想像していたものより10倍は美味しかったです。品種ごとのジュースを飲み比べ、甘いものからややさっぱりしたものまで存分に楽しみました。特に青森市のA-FACTORYさんではシードルの品種ごと

の飲み比べ（9種類）ができ、林檎のジエラート（6種類）が販売されていましたがどれも絶品でした。

その後、青森の友人が紹介してくれた海鮮のつけ丼を食べに青森魚菜センターで昼食をいただき、宿に行くまでの時間はあの有名な「三内丸山遺跡」で過ごすことに。日本史選択だった私は何回も聞いた名前ですが、実際に見るのは初めてでした。三内丸山遺跡は縄文時代のものですがつい最近、大きいやぐらの跡が発見されたようです。ガイドさんの話によるとこのやぐらの発掘で縄文時代にも人々は定住していた可能性が出てきたとのこと。私の不確かな記憶によれば、縄文時代には狩りのため人々は移住しながら生活しており、弥生時代（～縄文後期）に稻作が入ってきてそれに伴い定住するようになったと習ったような。知らない間に通説が変わっていき、一万年前の暮らしが明らかにされていくのはやはりロマンを感じます。

一万年前に思いを馳せた後、本日のお宿に向かうことに。その名もランプの宿「青荷温泉」。青森県黒石市の山中にある宿なのですが、その名の通り照明を全てランプで補っている施設です。電気による照明がないどころかテレビもなく、インターネットも通っていない、所謂デジタルデトックスの体験もできる宿です。客室の照明はランプ二つのみ。ただこれが本当に雰囲気が良い。暗闇を照らすランプを見つめていると気分が落ち着き、日頃いかに光にまみれた生活をしていたのかと思わされます。ランプが作り出す空間はきっと恋人2人で来ると本当に素敵な時間を過ごせるのでしょうか。男4人で行くことになったのが少し悔やまれました。そして雰囲気だけでなく、温泉や食事も素晴らしい。真冬に行ったこともあり、山中は鹿児島においては到底体験することのない大雪で、露天風呂に入りながら眺める銀世界は何よりの贅沢でした。食事は何より米が美味しい。やはり米どころの米は格別で炊き方も違うのか。気がつ

けば3杯目のご飯を完食していました。別格の米から作る日本酒も絶品で、普段日本酒を飲まない私でもスイスイ飲むことができました。ランプの宿「青荷温泉」、オススメです。



ランプの宿にて

岩手観光と秋田の乳頭温泉

～秋田美人と男4人～

青森で宿泊した次の日、岩手から秋田にかけて観光しました。林檎のイメージがあった青森とは違い、岩手にはほとんど知っていることがなく、完全に未知の世界でした。岩手に向かう道すがら調べてみると、どうやら「わんこそば」が有名なようです。男4人での旅行でしたので、これはわんこそばに全員で挑戦し、熱い戦いを繰り広げる流れだと察しましたが、どうやらわんこそばは予約が必須の様子（挑戦される方は是非事前予約を）。残念ながら別の名物を探すことになりました。盛岡には三大麺料理なるものがあり、わんこそばもそ

の一つのようです。残り二つは盛岡冷麺と、じゃじゃ麺とのことでしたので今回はじゃじゃ麺に挑戦しました（ジャージャー麺とは言わないみたいです）。あまり馴染みのない料理でしたが、混ぜ味噌を麺に絡めて食べる料理のようでボリュームもあり大変美味しかったです。わんこそばで満腹中枢に暴力を振るうよりも満足度の高い昼食だったかもしれません。



盛岡三大麺の一つ じゃじゃ麺

昼食後盛岡の街歩きを楽しみ、夜はそのまま秋田県に。秋田といえば日本三大美人の街。秋田に美人が多い理由は日照時間が短く肌が白いからだとも、昔からヨーロッパから移り住む人が多く血が混じったからだとも言われています。言われてみれば確かに街ですれ違う女性は美人が多いような気がしました。街のいたるところに秋田美人のポスターが貼られており、ポスターを見つけるたびに男4人で推しを見つけ楽しんでいました。地元の方の目にはどう映ったのでしょうか。

この日のお宿は全国的に有名な「乳頭温泉 鶴の湯」。まずはなんと言っても温泉が素晴らしい。温泉の色は秋田の深い雪が溶けたような乳白色で、白い湯気が立ちのぼる先にうっすら湯が見える様子は、まさしく「秘湯」と呼ぶにふさわしい湯でした。湯の温度は東北の温泉らしく熱めでかけ湯を繰り返してやっと入れるくらいですが、

慣れてくると、凍るような外気と熱い温泉のコントラストが楽園のよう（温泉なので写真は撮れませんでした）。入浴後の食事は、秋田の味噌と魚と山菜を使った膳。普段の食事からは考えつかないほど健康的な料理でかつ美味しい。特に秋田の山菜は、草とはこんなに美味しくなるものかと思わせられる程でした。旅館自体の雰囲気も非常によく、雪景色と温泉宿という光景を堪能しました。次の日東北の素晴らしさに感動しながら帰路につきました。



乳頭温泉 鶴の湯にて

福島から仙台、山形にかけて 温泉宿をめぐる

～念願の温泉街と宿とときどきハワイ～

2回目に東北を訪れたときも真冬の2月でした。今回もまた温泉メインの旅行ということで、福島から始まって仙台、山形と回るルートを行きました。

東北に着いてまず向かったのは、ハワイをイメージして作られたリゾート施設「ス

パリゾート ハワイアンズ」。写真をSNSにアップすると友人からは「東北に行ったはずなのにハワイにいるの？」と言われましたが、その名の通りハワイをモチーフにした施設で、スパやプールが楽しめます。27歳といい年をしているのですがプールはいつ行ってもテンションが上がります。錦江湾横断遠泳仕込みの平泳ぎを披露しつつ、日本一らしいウォータースライダー やスパを楽しみました。夜はフラダンスのショーを見物しに行きましたが、これが想像していたよりクオリティが高い。正直フラダンスというものを甘く見ていました。独特のリズムと踊りや炎を使った演出で魅せる世界観は他に類がなく、数百円の席で見物したのが申し訳なくなるほどのものでした。これは本当に一見の価値があると思います。行かれる方は是非。夕食のバイキングは旬の肉や魚から子供が好きなメニューまで品数多くあり、男6人は大歓喜でした。東北の中のハワイもなかなか良いところでした。



ハワイアンズにて 東北でフラダンスを楽しむ

次の日訪れたのは、東北の中心都市仙台。かつては独眼竜こと伊達政宗公が治めた街は想像していたよりかなり都会で、東北他県とはかなり雰囲気が異なりました。着いて早々、まずは政宗公に謁見しなければと仙台城跡に向かうことに。写真でしか見たことのない伊達政宗公の銅像を拝むことができました。道中、鹿児島では見ることのないコンビニ「ミニストップ」を発見。噂

によるとパフェが美味しいとのことで、雪の降りしきるなか震えながら「なめらかプリンパフェ」をいただきました。確かに美味しいのですが、真冬の仙台で食べるものではなかった気がします。その日の宿泊はビジネスホテルで簡単に済ませたのですが、グルメだけは手を抜かないと夕食は仙台名物牛タンをいただくことに。普段食べる焼肉の牛タンとは分厚さのレベルが違い、シンプルな味付けだけでなく味噌味もあるのが仙台流。付け合わせの南蛮味噌は単体で食べるとかなり辛いのですが、牛タンといっしょに食べると濃厚な牛タンにいいアクセントを加えてくれます。帰りにこれまた仙台名物「ずんだ餅シェイク(Lサイズ)」を買い意気揚々とホテルに帰りました。



独眼竜伊達政宗と仙台名物牛タン

仙台を出て次に訪れたのは山形県。かの俳人、松尾芭蕉も詠んだ最上川で急流下りを楽しんだ後は、旅行の目玉の一つ、山形県尾花沢市にある銀山温泉に向かうことに。『千と千尋の神隠し』のモデルになったとも言われている有名な温泉で、ご存じの方も多いのではないかでしょうか。温泉街はさほど広くはないのですが、大正ロマンを思わせるレトロな建物や街灯が作り出す街並みはどこを撮っても写真映えするほど美しく、千と千尋というより「はいからさんが通る」を思わせました（観たことはありませんが…）。食事や温泉もとても素晴らしい、特に山形牛は我らが鹿児島の肉に匹敵するのではないかと思わせるほど絶品でした。ちょうど卒業旅行シーズンだったため、他の医科大学からの観光客も来ており、食事処でずっと国家試験の話が聞こえてきたのが残念ではありましたが、それ以外は最高の時間を過ごすことができました。



銀山温泉にて

次に訪れたのは一昨年社会現象にもなったアニメ「鬼滅の刃」のモデルにもなったと言われている旅館、福島県「芦ノ牧温泉 大川荘」。どこがモデルになったかは入ってみて一目瞭然でした。ロビーから吹

き抜けになった階下には渡り廊下が走っていて、そこには上からの階段がつながっており、中央には着物を着た女性が座して三味線を生演奏。確かに鬼滅の刃の無限城を思ひました（三味線を演奏している方から誰が鬼じゃと突っ込まれそうですが…）。ブームもあったことから当然人も多いのだろうと思っていましたが、入り口に「宿泊者以外立ち入り禁止」の張り紙。宿泊の予約はいっぱいのようですが、見学だけの鬼滅キッズ達の妨害を受けることなく三味線の音を堪能できました。当然のことながらアニメが流行る前から行っているサービスらしいのですが、SNSで一気に有名になつたようで、改めてSNSの力は恐ろしいなと実感させられました。



鬼滅の刃のモデルになったと言われている「大川荘」

次の日は福島県と栃木県を結ぶ旧宿場町「大内宿」を訪れました。大内宿は江戸時代、会津藩の参勤交代の要所として栄えており、今でも江戸時代の風景を残しています。かつて宿として使われていた建物も今はお土産物や食事を振る舞うお店に様変わりしてはいますが、200年経った今でも訪れる人に楽しみと癒やしを提供しています。ねぎを箸にして食べる蕎麦が名物だったので

すが時間が合わず断念。代わりに甘酒と漬物を購入しました。そしてここで人生初の雪で作ったかまくらを見る事ができました。雪が少し降っただけでニュースになる鹿児島では、まず挾むことができないかまくらにテンションが上がりました。小さなながらも入ることができ、中は雪の中とは思えないくらい暖かい。東北で初めて知ったのですが、雪は積もると熱を通さないため暖かくなるそうです。江戸時代に思いを馳せつつ大内宿を後にして帰路につきました。



人生初のかまくらと大内宿

東北一周を終えて

東北の話を鹿児島の方にすると、大抵の方に行つたことがないと言われます。確かに鹿児島空港からは直通便がなく、寒くて厳しい気候のイメージもあるせいも相まって、行くまでのハードルはかなり高いでしょう。でもだからこそ行ってみてほしいと感じます。観光地（主にグルメ）の紹介ばかりしましたが、当然ながら東北にもかなりの人が住んでいます。平地はもちろん、電車の車窓から見えた吹雪の中にある小さな集落にも、雪の深い山の中にも人は住んでいるのです。鹿児島の暖かい気候とは違う、雪と寒さのなかで生きていく人たちの生活や文化、食生活を観光しながら是非肌で感じてみてほしいです。普段は体験することのない、雪の世界を味わってみてください。きっと良い経験になると思います。

次号は、鹿児島大学病院の植之原里香先生のご執筆です。
(編集委員会)